

## 地域の高齢者福祉施設で感染制御に挑む

清水宣明

愛知県立大学看護学部教授、感染制御学、コミュニティケアシステム

今回は、インフルエンザ流行の制御に成果を上げている地域の2つの介護施設の取り組みを紹介します。高齢者はインフルエンザを発症すると重症化してしまう可能性がほかの年齢層より高いとされています。多くの高齢者が集まる施設では、高い感染制御能力が求められますが、独特の難しさもあります。2016年の伊勢志摩サミットの地で実践されているノウハウについて考えてみましょう。

### 志摩の里における感染対策 開設から7年を振り返る



公益社団法人  
地域医療振興協会  
志摩地域  
医療福祉センター  
志摩市  
介護老人保健施設  
「志摩の里」  
介護看護部  
原口悦子

### はじめに

介護老人保健施設の感染対策は質の高い感染管理が求められている。当施設は開設から7年が経過し、おかげさまでインフルエンザやノロウイルス、疥癬などの集団感染の発生はない。しかしほかの病院や施設などでそれらの集団感染が発生したと聞くと、自分の施設は大丈夫だろうかと平常心ではいられない。今回、愛知県立大学の清水先生と施設の感染対策についてお話する機会があった。先生と会話しながら開設から現在までを振り返ると、施設独自で特別な感染対策の工夫をしているわけではないことに改めて気づいた。日常業務において、感染対策の基本である「スタンダードプリコーション」の実践と施設内の清掃が行き届いていること、感染症発生時や疑いが懸念された時の初期対応が感染拡大を予防していると実感する。

### 1. 施設の紹介

当施設は風光明媚なりアス式海岸で特有な地形の三重県志摩市で、英虞湾と太平洋に挟まれた前島半島の中ほどにある。2008年4月に志摩市が建設し、公益社団法人地域医療振興協会に管理委託され運営を開始している。

入所定員は100名、通所リハビリ定員は30名で、施設の療養室は全室個室ユニットケア型である。10室を1グループ(1ユニット)とし、1階には2ユニット20室と通所リハビリテーション、2階と3階にそれぞれ4ユニット40室の造りになっており、それぞれの居室にはトイレ、洗面台が設置されている。職員はそれぞれのユニットと通所リハビリテーションに所属し、1ユニットに介護職、看護職合わせて4~5名を配置している。夜勤は2交代制をとり、早番や遅番などのシフトを組んで業務に携わっている。また2ユニットがとなり合わせになっており、2ユニットの中央には共有す